

**第 1 回**  
**富士市総合計画審議会 第 1 分科会**  
**議事録**

令和 3 年 4 月 3 0 日(金) 午後 7 時 0 0 分～

富士市役所 8 階 政策会議室

【基本目標1 安心できる暮らしを守るまち について】

- 荻野会長 事務局からの説明が終わりましたので審議を行っていきたいが、一括審議するにはボリュームがあるため、政策分野ごとに進めていきたい。  
まず、政策分野1「危機管理」についてご意見ご質問等ありましたら、お願いします。
- 高澤委員 SDGs は一般に知られていないので、最初にこういうもので、それに向かって進むということ載せる必要があるのではないか。
- 荻野会長 今のご意見を受けて事務局いかがですか。
- 事務局 SDGs が基本計画の中で唐突に出てくるのではないかというご質問の趣旨かと思う。この冊子に関しては、各委員の皆様には前期基本計画案ということでご覧いただいているところであるが、冊子として作成する際には、以前ご審議いただいた基本構想案もまとめて一冊のものとしたと考えている。基本構想案で序論の部分に SDGs、世界あるいは日本の流れということで SDGs についての定義付け・理念についての説明や国の状況についての説明や、基本構想の「第4章 めざす都市像の実現に向けて」においても位置付けている。  
また、SDGs の達成に向けた取り組みとして昨年7月の SDGs 未来都市への選定や、本計画に SDGs の理念や視点を積極的に取り入れて、本市のめざす都市像の実現と SDGs の達成に向け取り組んでいくことを記載している。冊子として1つにするときに、基本構想で SDGs について説明した上で、基本計画に入っていくという流れで SDGs について示していきたいと考えているので、ご理解願いたい。
- 荻野会長 オンラインの方どなたかございますか。
- 芹澤委員 SDGs のアイコンについて気になった点がある。前回は10ページの「めざす都市像」のところでもう少し説明を、という意見があったが、外務省のホームページに SDGs とは何かというわかりやすいパンフレットがあったので、同じような形で付けていただくことや、各論の見方のページで先にアイコンを表示することなど、別のページに表示するのであれば、記載について参照する注釈がどこかにあるとよいと思う。  
SDGs 未来都市選定などについて、追記していただくという話があったの

で、その部分についてはよいが、全体的な文章の配置では、どの部分が重要になるのかわかりにくいので、デザインを変更したり注釈を入れたりする予定はあるか。

事務局 デザインについては、最終的に冊子にするときにデザイン業者と打ち合わせをして、より見やすいデザインを考えていきたい。また、重要な点を各政策分野の中でどのように示していくかについては、前回の審議会でお示しした重点戦略が、全体の中から抽出をし、重点としてお示しするもので、色で分けるなどのデザインによって、各政策分野の中で重点という形でお示しすることは、検討していない。

荻野会長 ありがとうございます。芹澤委員よろしいでしょうか。遠藤委員お願いします。

遠藤委員 3点確認したい。1点目は、「現状と課題」の1つ目に記載されている「外国人人口の増加」に対応する施策はどれか。2点目は、「現状と課題」の3つ目に「多様な手段や主体による情報提供」という記載があるが、多様な手段は書いてあるような気がするが、「主体」はどの施策で打ち出されているのかわかりにくい。3点目は、「施策」の「2 豪雨等対策の強化」の3つ目の「排水設備の事故を未然に防止するため、維持管理にかかる計画を作成します」とあるが、今期は計画を作成するだけということか。

荻野会長 事務局お願いします。

事務局 1点目のご質問の「外国人人口の増加」に対応する施策については、広くは啓発という部分になるが「地震対策の強化」の1つ目の後段にある、「事業者や市民団体などとの協働による防災活動を促進するなど、地域防災力の向上を図ります」や、2つ目に記述している「防災セミナーや防災出前講座・防災啓発動画などにより防災意識の高揚を図ります」などで、増加している外国人市民の方の啓発についても行っていくという考えである。2点目の「多様な手段や主体による情報提供の充実が求められている」に対応する施策については、「3 危機管理体制の強化」の2つ目の「地震や豪雨、富士山噴火等の緊急時における情報収集と共有を図り」の部分で、富士市だけで情報を発信するというのではなく、国や県、新聞やテレビなど関係するメディアと情報収集や共有を図っていくことが対応している。

3点目の「2 豪雨等対策の強化」の3つ目「排水設備の事故を未然に防止するため、維持管理にかかる計画を作成します」については、ご指摘の通りであり、これでは計画を作成して終わりを受け止められかねないので、文章については改めて検討させていただきたい。

荻野会長 ありがとうございます。高澤委員お願いします。

高澤委員 「危機管理」について、24ページの基本方針のところには「富士山噴火」はないが、25ページの「3 危機管理体制の強化」のところには「富士山噴火」が入っている。富士山噴火を入れるというのはすごく難しい時だと思うが、基本方針の方へも「富士山噴火」という言葉を入れた方が良いのではないか。

また、施策の1「地震対策の強化」には、「地域防災指導員」という言葉が入っているが、行政だけではなく、なるべく民間を巻き込んだような表現にしたほうが良いのではないか。例えばそこに「自主防災会役員」なども入れて、行政だけではなく、民間や他と一緒に取り組んでいくという雰囲気にしたらどうかと思う。

政策分野3・4を見ると、タイトルに市民という言葉が含まれているので住民を巻き込んで行っているように見えるが、政策分野1や2は行政だけで行っているように見えるため、住民を巻き込んで一緒に取り組んでいるという部分をもう少し強く出してはどうか。

荻野会長 事務局お願いします。

事務局 1点目は、「富士山噴火」という言葉を基本方針にも記載してはどうかということだと思うが、こちらについては、「緊急時の」という言葉の中にあらゆる災害が想定されることから、特に「富士山噴火」という言葉を出さずに「緊急時」という言葉でまとめている。施策の3の記載については、もう少し具体的に、「地震や豪雨、富士山噴火等の」という事例を出しているが、こちらの文章については再度検討させていただきたい。

2点目の、全体的な記載について民間と一緒に取り組んでいく雰囲気を出すことについては、特に、「1 地震対策の強化」で「自主防災会役員」という言葉を入れてはどうかというご提案かと思う。この施策そのものが「主な構成事業」にある「自主防災組織の育成や支援」といった事業を表した文章となっているが、具体的に「自主防災会役員」という名称を出すかどうかについては、担当課と改めて検討させていただきたい。

荻野会長 ありがとうございます。他にございますか。時間の関係もありますが、意見があればお願いします。  
櫻井委員どうぞ。

櫻井委員 私も富士山噴火のことはとても気になっていて新聞記事を持っているが、ハザードマップが改定になり、皆さんすごく心配していると思う。津波や地震はある程度の情報が今まで入っているのでわかるが、富士山噴火でも、もし富士市の方で発生した場合にはこうした方がいいということなど、つぶさに様々な情報を流していただくシステムを必ず作っていただきたい。  
また、そのために、高澤委員がおっしゃったように、地域の防災指導員の方などがそういう話を皆さんに伝えて、協力や共助していくことを皆さんに広めていただくような施策をお願いしたい。

荻野会長 他にご意見ありますか。ないようですので、政策分野2の「消防・救急・救助」について、皆さんから意見はございますか。

海野委員 1点目は、「救急出場件数の推移」のグラフのデータが、富士市の記載しかなく、比較がない。多いか少ないかわからない。データの使い方について確認したい。  
2点目は、施策の3「救急・救助活動の充実・強化」にある「水難事故、山岳事故を想定した」というところで、今後ドローンを活用した方がよいと思うので、記載してはどうか。

荻野会長 事務局お願いします。

事務局 1点目のグラフのデータについては、富士市のデータしか記載していないため、比較できるようなデータがないか確認する。  
2点目のドローンの活用については、施策の3の中でドローンについて記載ができるか確認させていただく。

荻野会長 私も今の時代ドローンをかなり使っているということで、入れておいてもいいのかなと思う。民間や市役所などでドローンの技術を向上することも山岳事故や水難事故に対応していくためには必要と思う。

高澤委員 基本目標1の中でこの分野が一番行政だけでやるのかなという感じがした

ので、やはり民間を活用するというか、民間と一緒に取り組んでいくということを表して欲しいと感じた。

施策の2「火災予防の促進」で「社会福祉施設の防火管理体制指導マニュアルに基づき訓練指導を実施します」とあるが、福祉施設だけでなく一般企業もあると思うので、もう少し幅を広げたらどうかと思う。

施策の3「救急・救助活動の充実・強化」について、「救急救命士」はプロの方だと思うが、民間に「応急手当普及員」という方もいるので、これらも記載して民間の力を活用するという形にしてはどうか。

荻野会長 高澤委員の「民間の力を活用して」という部分については、改めて検討してください。

石川委員 政策分野2は「消防・救急・救助」というタイトルだが、将来のまちの姿は「安全・確実・迅速な消防体制が備わったまち」ということで意味が少し狭くなっているような気がする。  
それを受けて、成果指標のアンケートで「消防体制が備わったまち」となっているが、ここでは「消防」に「救急」や「救助」両方の言葉を添えた方がよいのではないか。

荻野会長 事務局お願いします。

事務局 「消防体制が備わったまち」という部分の「消防」という言葉の中に救急・救助という意味も含まれるものではあるが、よりわかりやすい表現について改めて検討させていただきたい。

遠藤委員 人口1万人当たりの出火率の推移のグラフはどのような目的で記載しているのか。

また、同グラフにある平成29年の西暦2019年は2017年の間違いではないか。

救急出場件数を掲載して、何を説明するのか。

荻野会長 グラフの年は間違っているので訂正をお願いします

事務局 グラフの西暦は修正する。  
また、グラフで示したデータの使い方については、全ての政策分野の現状と課題でグラフや写真を示している。グラフは、現状を視覚的に把握して

いただくものとして、これまでの推移や実績を示しているものである。

荻野会長 芹澤委員お願いします。

芹澤委員 左の出火率を示すグラフは、富士市は全国に比べて火事が少ないということを表しているということか。

右の救急出場件数のグラフで令和1年から令和2年にかけて減っているのが、よいことなのか悪いことなのか、これからどうしたいのか、グラフがどこに関連付けられているのか、これからデザインを検討するということであれば、同じ色や言葉にするなど、一目でわかるような関連付けがあると資料としてより有効になると思う。

荻野会長 事務局お願いします。

事務局 左の出火率のグラフは、全国と比較して大きくは変わらないが、平均よりも低い出火率を維持している現状を示している。右の救急出場件数の推移のグラフであるが、令和1年から2年で大きく減少しているのは、おそらくコロナの影響があったのではないかと推測している。具体的な根拠が確認できているわけではないが、減少している理由の1つになるものと考えている。掲載の仕方についてはご指摘の通りであるので、より理解しやすい体裁を考えていきたい。

荻野会長 続いて、政策分野3の「市民安全」について審議したいと思いますので、ご意見やご質問等ありましたら、よろしくお願いします。

水野委員 はじめに、私の所属する団体について話をさせていただく。「きらり交流会議」はフィランセにある男女共同参画センターの利用登録をした市民活動団体と個人の集まりの団体で、20数年前から富士市の男女共同参画の関係部署と協働していろいろな事業を行っている。

1点目は、「現状と課題」の1つ目に「子どもや女性、高齢者などが」と書いてあるが、犯罪の被害に遭うのは市民全体だと思う。子どもや女性、高齢者が被害に遭いやすいから入れたと思うが、外国人も令和2年3月時点で5,981人住んでいて、外国人も犯罪の被害に遭うかもしれないので、もう少し幅の広い表現をした方がよいと思う。

2点目は、「2 交通安全対策の推進」に「高校生の自転車マナー街頭指導」と書いてあるが、各企業で開催しているかもしれないが、外国人の方々に

も自転車の乗り方など伝えていった方がよいと思うので、富士市にたくさんいらっしゃる外国人の方々にも配慮した文章にした方がよい。

荻野会長 事務局お願いします。

事務局 1点目の「子どもや女性、高齢者などが犯罪の被害に遭わないよう」という表現については、水野委員がおっしゃったとおり、犯罪の被害に遭いや  
すい方々ということで記載をしている。より幅広い表現にしてはどうかと  
いうご意見をいただいたので、改めて検討させていただく。

2点目の自転車マナーの指導については、特に高校生の自転車通学者が多  
いことから記載している。外国人の交通マナーについても啓発を行って  
いくが、文章については改めて検討させていただく。

荻野会長 水野委員お願いします。

水野委員 実際に市内を自転車で走っていると、外国人の交通マナーが悪く、危ない  
思いを何度もしたということと、高齢者も車だけでなく自転車で危ない乗  
り方をしている方もたくさんいるので、「高校生、高齢者、外国人」という  
ように書いてもよいと思う。これからはSDGsの関係もあり、自動車より  
自転車を使おうという人も増え、富士市も自転車利用を推進しているので、  
この辺りはきめ細かに「交通安全対策」で自転車について記述をした方が、  
これから対策を取りやすいのではないかと感じた。

荻野会長 他に市民安全について何かございますか。櫻井委員どうぞ。

櫻井委員 「広報ふじ」で市長の施政方針が掲載されており「安心・安全」という表  
現であったが、ここでは「安心」を「安全」の先に出した意図は何か。

荻野会長 事務局お願いします。

事務局 「広報ふじ」には「安心・安全」と書かれているが、「安全・安心」が正し  
い表現となる。申し訳ありません。「安全」があって皆さんの「安心」があ  
るという考えである。

荻野会長 海野委員どうぞ。



海野委員 覚醒剤について私の周りでも危惧している声が多く、2019年は県内で一番の検挙率だった。覚醒剤に対する施策が「市民大会や街頭啓発」と書いてあるが、今までこうした施策を実施してきても減っていないので、プラスアルファで何かをしていく意気込みがあるような文章にしていきたい。

もう1つは、グラフにあるように飲酒運転事故が全国平均よりもかなり多いので、施策の2「交通安全対策の推進」に「交通安全教室や高校生の自転車マナーの街頭指導」と書いているが、一般的な話なので、ここに「飲酒運転防止意識の向上」などの言葉を明確に入れて、富士市は飲酒運転が多いので絶対に減らすという意気込みを入れていただきたい。

荻野会長 事務局お願いします。

事務局 覚醒剤については、なかなか覚醒剤の事犯が減らないという状況である。こちらについてより強化していくというような記載ができるか検討させていただく。

飲酒運転については、明確な記載を検討していきたい。

荻野会長 高澤委員お願いします。

高澤委員 小学生の孫がおり、学校から「下校途中に児童が不審者から声を掛けられた事件があったので注意してください」という通知が届くが、子どもの安全について、もう少し入れることはできないか。

荻野会長 事務局お願いします。

事務局 子どもの安全について、「基本方針」では、「市民一人ひとりの日常生活における防犯意識を高め、地域の防犯活動を促進する」として大きな方針を記載している。具体的な施策としては、「1 防犯まちづくりの強化」で「防犯パトロールや防犯講座を通じ、市民や事業者等との協働による安全なまちづくりを推進します」と記載しているが、小学生といった部分についても、少し踏み込んだ記載ができるかどうか検討させていただく。

荻野会長 事務局で検討をしていただけたらありがたいと思います。遠藤委員お願いします。

遠藤委員 「飲酒運転事故発生件数」のグラフは県平均を上回っているので課題としてわかりやすいが、「特殊詐欺事件の発生件数と被害額」のグラフは右肩下がりになっているが、これはどういう意図か。

荻野会長 事務局お願いします。

事務局 左の「市内の特殊詐欺事件の発生件数と被害額」については、全国的に被害が続いている中、警察も検挙や防止について金融機関等と協力して行っていることで、全体的な件数については少しずつ減少しているというような傾向が見られる。しかしながら、被害額については、いまだに全体で3千万円を超えるような被害が出ているので、引き続き市民の方々が被害に遭わないような啓発や対策等を実施していく必要があると考えており、こちらのデータを掲載している。

遠藤委員 このグラフでは伝わりにくいので、別の手段を考えた方がよいのではないか。

荻野会長 そちらについても、事務局に検討していただきたいと思います。続いて、政策分野4の「市民活躍」に移りたいと思います。水野委員どうぞ。

水野委員 1点目は、審議会の時にも言ったかもしれないが、「市民活躍」という言葉が気になっており、既に富士市民は市民活動を積極的に行っている人が多く、それを積極的に発信している人もいれば発信してない人もいたり、時間がなくても活動している方もたくさんいらっしゃると思うので、この言葉でもよいかもしれないが、もう少し違う言葉もあってもよいのではないかと考える。

2点目は、「現状と課題」の1つ目で「課題解決の担い手として、地域コミュニティの活性化が必要となっています」と書いてあるが、市民の方々はコミュニティ活動など、様々な活動をされている部分があるとしたら、そういった部分も文章として書いた方がよいのではないかと考える。

3点目は、「男女共同参画」という言葉を使っていて、それはそれで良いが、SDGsの目標5では「ジェンダー平等」という言葉を使っている。SDGsは、元々は国連が2015年から始めており、「ジェンダーイコリティ」、「ジェンダー平等」という表現であるが、それを日本は「男女共同参画」という言葉を使っている。ジェンダーは多様な性を含む言葉なので文章の中で

「男女共同参画」という言葉を使う時には、中点を入れて「ジェンダー平等」という言葉を入れた方が良い。

荻野会長 事務局お願いします。

事務局 1点目の「市民活躍」という言葉であるが、審議会での説明は、庁内の検討会でも非常に悩んだということを示したところであり、非常に幅広く市民の皆さんが主体として活躍するような状態であること、今後5年10年、特に基本計画の計画期間である5年先にそういう状態で市民の皆様が主体として活躍していらっしゃるということを目指して施策を展開していきたいと考えている。「めざす都市像」として「基本構想（案）」でお示した「富士山とともに輝く未来を拓くまち」では、市民一人ひとりの皆様が生きて暮らしている、という状態を目指すとしたということで一番の目標として定めているところである。市民の皆様が、地区の中で性別や国籍を問わず活躍している状況にしていきたいと考え、「市民活躍」という言葉が現時点でふさわしい表現として使っている。

水野委員がおっしゃったように、他の適切な表現がないか、今後考えてみたいと思っているが、他の表現が出てこなければ、今の表現としたいと考えている。もし何か皆様の方でこういう表現があるのではないかというご意見もあつたら、事務局までお寄せいただきたい。

2点目の「地域コミュニティの活性化」について、取組も具体的に書いてはどうかというご意見かと思うが、ご指摘を踏まえ、地域コミュニティが今後の主体としてどう取り組んでいくか、市としても非常に大きな課題になっているので、担当課とともに検討したい。

3点目の男女共同参画、SDGs、ジェンダー平等ということで、ご案内のとおり「ジェンダー平等」という言葉が国連の方でも使われている言葉であるので、「男女共同参画・ジェンダー平等」という併記の仕方については、全体にかかるご意見でもあるので、全体を見ながら使い方については事務局でも再検討させていただきたい。

水野委員 「地域コミュニティの活性化」というところで、「市民活躍」で使われているよいのだが、長年富士市で市民活動をしてきて感じているのは、地域コミュニティの中での市民活動や行政との協働の活動もたくさんあるが、ごみ問題や男女共同参画や子育て支援など、その地域やまちづくりセンターのコミュニティを乗り越えて横でつながっている市民活動もたくさんある。ここはもう少し違う表現があるか私も考えてみたいと思う。

荻野会長 石川委員お願いします。

石川委員 施策の3「多文化共生の推進」の2つ目であるが、「日本語学習支援」と「やさしい日本語の普及啓発に関する取組」というのはどう捉えればよろしいか。また、それによって「多文化共生を担う人材の育成や発掘を行います」とあるが、これらの取組によってどのようにして人材が育成されるか、発掘されるかというイメージを教えてください。

荻野会長 事務局お願いします。

事務局 「日本語学習支援」は外国人を対象とした学習支援であるが、これに加えて学習支援をする方の啓発や育成というところも含まれている。また、「やさしい日本語の普及啓発に関する取組」は、やさしい日本語の普及啓発により、外国人の方とコミュニケーションをとりやすくなるように行っていくものである。これによって、外国人の方との間を取り持つような人材の育成や発掘につながるのではないかと考えている。

石川委員 少しわかりにくい気がするので、これらの取組によって人材の育成や発掘につながるという意図が伝わるような文章にしていきたい。

荻野会長 「多文化共生の推進」のやさしい日本語の普及啓発の部分を説明していただけると、石川委員もわかると思うのでよろしくお願いします。

事務局 「やさしい日本語講座」など、日本語を外国人に理解していただくような講座も行っている。それらも含めた中で施策に記載をするということで私たちも考えているところであるため、ご質問を受け、理解しやすい表現などを再検討させていただきたい。

荻野会長 それについて、関連で水野委員どうぞ。

水野委員 多文化共生を担う人材の育成・発掘というのは、吉原高校に国際科もあり、富士市からも多くの青年海外協力隊として多くの国に行き、帰国して富士市で生活していたり仕事していたりする方も多くいると思う。人材の発掘はしやすいと思うので、この文章を少し変えれば、多文化共生を担う人材の育成や発掘、市として前向きな表現に変えることはできるのではないか

と思う。私も JICA で国際協力の仕事をした経験があるので、助言できたらいいと思う。

荻野会長 芹澤委員お願いします。

芹澤委員 先ほどの話に戻ってしまうが、以前に「やさしい日本語のボランティア講座」に参加したことがあるのでお話をさせていただく。交流プラザの中でボランティア養成講座を時々行っていたり、その施設の中に常設で外国の方に日本語を教える支援をしたりするような場所がある。その中で日本人の方と日本語学習を希望される外国の方がパートナーとなって一定の金額で、ほぼボランティアで教えていただける機会がもらえたりということを行っているようである。直接参加はできていないが、ここではこれらの事業を進めることによってボランティアをされる方を増やしたい、またはしたいと潜在的に思っているけれど、知らない方に教えたいというような狙いがあるのかなと思った。

荻野会長 事務局お願いします。

事務局 補足をいただきありがとうございます。

荻野会長 芹澤委員お願いします。

芹澤委員 「市民活躍」で出てくる「まちづくり」というのはどこまでを指すのか、施策の1「地区まちづくり活動の推進」のところで「地区まちづくり活動の担い手となる人材の育成講座を実施します」などの記載はあるが、まちづくりというのは、例えば、まちづくりセンターで開かれるような講座に参加したりとか趣味的なことに参加することはまちづくりとは言わないのか。市に影響することだけがまちづくりなのか。それともコミュニティを形成すること自体はまちづくりに入るのか。そういったコミュニティ自体がまちづくりに入るのであれば講座を行うということもあるので、生涯学習がSDGsの中で該当すると思う。

荻野会長 事務局お願いします。

事務局 「まちづくり活動」の範囲であるが、地区のコミュニティ活動の中に関わるものという認識である。施策の1「地区まちづくり活動の推進」の2つ

目に「地区まちづくり活動の担い手となる人材の育成講座」と記載しているが、こちらについては「現状と課題」でも挙げているように、地域における福祉・防災・環境などの課題解決につながるような講座や、実際に活動されている方への支援がここで示している講座になる。生涯学習については、39 ページの基本目標 2 の政策分野 4 の施策の 1 「生涯学習活動の推進」の「地域の担い手づくりや課題解決のための人づくり講座」の方に分類をして記載をしている。

荻野会長 もう少し時間がありますので、芹澤委員どうぞ。

芹澤委員 施策の 2 「男女共同参画の推進」で水野委員からもご意見がありましたが、「男女共同参画」という言葉自体が前の時代に作られた言葉なので、今のジェンダーフリーという概念と噛み合わないようなところもあるのかなと感じるので、言葉の感覚的にそのジェンダーフリーを並べた方が現代的ではあると思う。

また、「富士市パートナーシップ宣誓制度」について、「広報ふじ」で見た方も多いかと思うが、初めて見た方は、この文面だけだと何があったのかわからないと思うので、こういった大々的なことを導入されているので、これを機会に説明があってもよいと思う。

荻野会長 先ほどの石川委員からの意見については修正してご提示ということでしょうか。

石川委員 皆さんのやり取りを聞いてイメージはわかりました。富士市でどのような取組をされているか知らなかったのので、この文章だけ読むとよくわからなかった。少しわかりやすく修正していただきたい。

荻野会長 そのように事務局でも対応するという事ですので、よろしく願いします。

荻野会長 以上で、質疑・意見を終わりにしたいと思います。事務局は本日の審議内容を踏まえながら検討していただきたい。本日の議事を終了します。委員の皆様、ご協力ありがとうございました。

